

平成27年3月27日

平成26年度 学長と学生代表者会議委員との 懇談会議事要旨

日 時：平成27年3月12日（木） 13：30～14：50

場 所：本部1階第3会議室

出席者：（大学） 柳澤学長，松本教育・学生支援機構長，
吉田教育学生支援部長

（委員） 森川委員長（医），松本副委員長（SCV），大野（法文），
杉浦（教育），長井（農），中村（体育系），梶原（文化系），
柳原（CBP）

欠席者：目戸（理），眞鍋（工），トゥリシア（留学生）

陪席者：上田学生生活支援課長，鈴江部員，渡部部員

[要望事項]

<新規>

1. 点字ブロックの設置及び通路の舗装について

平成18年に施行されたバリアフリー新法において、「道路の移動等円滑化整備ガイドライン」に沿った視覚障害者誘導ブロックの設置等の整備が奨められています。ガイドラインでは、視覚障害者誘導ブロックの設置について、「連続的かつ極力直線的に敷設するものとする」、「視覚障害者が点字ブロックを認識しやすいことが望ましい」旨、記載されています。

現在、城北キャンパス内には、点字ブロックが敷かれていない、または点字ブロックが剥がれている、点字ブロックの色が認識しづらい箇所が多くあり、視覚障がい者の通行に支障をきたしています。

以上より、正門前及び情報メディアセンターへの通路に点字ブロックの設置、正門前及び工学部前の点字ブロックを識別しやすいよう舗装することを要望いたします。

また、通路の陥没化等や段差も同様に、視覚障がい者や車いすユーザーの通行に支障をきたしている箇所があり、通路の舗装及び段差への簡易スロープの設置を併せて要望いたします。

【学長のコメント】

- 正門前の劣化が激しい箇所や途中で途切れている点字ブロックは、2月19日に開催された機構長と学生代表者会議委員との懇談会報告を受けて修繕済みである。
- 点字ブロックの色については、正門から外回りの整備をした時に、美観の面から通常の黄色い点字ブロックにできない場合や、健常者と視覚障がい者では、識別の認識が違う場合があるので、一概に識別しにくいとは言えないこともある。
- 就職支援課前の段差など指摘のあった部分は、順次改善していく。

2. 城北キャンパス内のゴミ箱の設置について

平成26年度学生代表者会議の議題の1つとして、城北キャンパス内でのゴミ箱の不足に関する案件があがりました。複数の学生からゴミ箱の増設または種別の拡大を要望するものです。

これを受けて本会議では、共通講義棟を中心にゴミ箱の使用状況を調査するとともに、スチューデント・キャンパス・ボランティア（SCV）のごみ収集活動のデータによるゴミ箱の利用状況の把握に努めました。調査を踏まえ、ゴミ箱の増設について検討した結果、特定の場所でゴミ箱が不足していることは事実で、要望のひとつである再利用弁当容器の回収場所拡大についても妥当性があると判断しました。しかし同時に、ゴミの分別の不徹底によって、ゴミ箱の不足が生じていることを重く踏まえ、本会議では学生の分別意識の向上をより急務とすべきと判断いたしました。

なお、妥当性があると判断した愛大ミュージズ等へのゴミ箱の追加設置及び再利用弁当容器の回収場所拡大についてはご検討いただけますようお願いいたします。

本議題のように、学生からの要望には、学生側のモラルが問題となっているものも多く含まれています。これまで学生代表者会議は、学生からの要望を大学側にアピールするための機関でありましたが、本会議は以上のような状況を踏まえ、「学生と大学双方への要望を伝えることで、相互理解に寄与する」機関を目指していきます。さしあたって今年度については、寄せられた要望への回答を可能な限り学生側へ返すことを最終目標とします。

【学長のコメント】

- ゴミ箱の問題は大学として盲点となっている可能性がある。
- 今後、管理を含めてゴミ箱の問題については多様性を持って考えることが必要である。
- 生協と協同して、学生に対するゴミ分別の勉強会を開催する等、総合的に検討すべきである。

- 学生が大学への要望を提案するだけでなく、大学からの要望も受け入れていくというのはとても高度で難しいことと思われる。継続性を担保するためには、代表者会議委員の任期を複数年にしないと難しいと思われる。
- 平成19年度から「学生代表者会議」に関わっているが、当時は11名の代表者で考えて自分たちの意見を出すような状態で、各学部学生からの意見をくみ取るようなことができていなかった。ようやく、代表者会議としての機能を発揮できるようになった。

4. その他

要望書の案件以外に、以下のような質疑応答があった。

○城北キャンパスの駐輪場の問題（教育学部 杉浦）

共通教育講義棟、生協食堂横に自転車を駐輪している学生がいる。

→大学としても十分に認識はしている。将来的には入口周辺に駐輪場を整備したいと考えている。しかし予算の関係もあり、解決には時間のかかる問題である。

○プールの件について（体育系 中村）

プールの浄水器を変えてほしい。

→大学としても整備を考えるタイミングではあるが、予算の事もあり構想はまだ固まっていないので、次年度以降への課題である。

○学生代表者会議にSSCの学生も加えてはどうか。（文化系 梶原）

→新学部が増えることもあり、人数を増やしすぎるのはどうかと思う。

SSCであれば理学部の代表者に意見をまとめてもらうこともできる。

○学部内の連携ができていないと感じる。（法文学部 大野）

教育支援課法文学部学務チームに知らせていたことが法文学部総務チームに伝わっておらず、倉庫のサークル(法文学部新歓学祭実行委員会)の荷物が捨てられていた。

→事務体制については、平成26年4月から職員の兼務という形で改善を行っているが、連携不足も含めて、職員の意識の問題でもある。本件については、学生生活支援課から、教育支援課及び法文学部事務課にその旨を伝える。

○グリーンプロムナードの工事の告知がなく、駐輪場の利用について戸惑うことあった。（委員長 森川）

→掲示のタイミングが遅くなったのは、大学として今後の反省材料である。

＜参 考＞

[検討段階で改善のあった事項等]

1. 図書館への IPA チャージ機の設置について

愛媛大学生協との交渉の結果、平成27年4月に IPA チャージ機の設置を行います。

2. 図書館トイレへのジェットタオルの設置

図書館の各閲覧室やラウンジにおいては、静寂性を保つことを基本として施設整備を行っており、トイレのジェットタオルについても、使用時の動作音等が周りに及ぼす影響を考慮し、設置を見合わせていましたが、今回の要望を受け、検討の結果、静穏性の高い機種を試験的に設置し、周りへの影響等を調査します。

3. 理学部本館にあるリフレッシュルームへのテーブル及び椅子の増設

要望を受け、状況調査した結果、1階及び3階、4階、それぞれのリフレッシュルームにテーブル1台、椅子4脚を追加で設置します。

4. 樽味キャンパス～城北キャンパスの移動

今回の提案理由を重視し、改めて、学生の移動時間を確保するための配慮を依頼します。

5. 樽味キャンパスの教室表示が見えにくい

バリアフリー推進室からアドバイスを受け、表示板の拡大や点字板の新設などの対応を検討します。